

学校教育目標	【か】よく考え 【な】なかよく 【が】がんばる 【わ】わたしたちかなっ子			
	【か】	自らすすんで問題を見つけ、よく考えて判断して行動し、豊かに表現できる子どもを育てます。(知)	【な】	自分や他者のよさを認め合い、個性を發揮しながら他者と豊かにかかわり合う子どもを育てます。(徳)
	【が】	自分の心と体に関心を持ち、すすんで健康保持に努めるとともに、体力の向上を目指す子どもを育てます。(体)	【わ】	自分が住む神奈川の「まち」について理解を深め、「まち」とともに育ち「まち」に貢献する子どもを育てます。(公)
		多様な文化やひとの存在を理解し、視野を広げて共によりよく生きようとする子どもを育てます。(開)		
学校概要	創立 145 周年	学校長 益子 照正	副校長 楠田 融	2 学期制 一般学級: 12 個別支援学級: 3
	児童生徒数: 368 人	主な関係校: 浦島丘中学校、子安小学校、浦島小学校		

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	浦島丘中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自己決定力 かかわり合う力 健やかな心とからだ	浦島丘中学校 子安小学校 浦島小学校	人とのつながりを大切にし、ねばり強く社会を生き抜く子 「人と人とのつながりを豊かにする社会性」、「課題解決能力」、「創造力と発信力」の3つの共通理解をもとに「ねばり強く社会を行く抜く子」を目指す。 具体的には、年間2回の小中合同授業研究会を通して9年間で育てる子ども像の意識を共有する。また、年間4回の中学校ブロック担当者会において、教育方針を調整する。さらに、児童生徒交流日を設定して児童生徒の小中接続意識化を図る。

中期取組目標	★★【か】よく考え ★★【な】なかよく 【が】がんばる ★【わ】わたしたちかなっ子
	授業改善を核とし、子どもの自己決定を保障する取組を継続的に行うことで、自らすすんで問題を見つけ、よく考えて行動する子どもを育てます。 様々な場面で子どものよさを価値づけることを通して目標モデルを確立し、また、授業や活動では子どもがかかわり合う場面を保障し、他者と豊かにかかわり合う子どもを育てます。 幼・保・小・中学校、家庭、地域と連携し、それぞれのニーズに応える学校づくりを推進します。

重点取組分野	具体的取組
生きて働く知	①学級担任の半数強が転入者で、かつ大きく平均年齢が下がった状況に鑑み、昨年度に進めた授業改善について早い段階での浸透を図り、児童主体の授業展開を進める。②「主体的・対話的で深い学び」を表す具体的な児童の姿を共有し、学年や低中高ブロックで教師間授業観察を推進する。
担当 運営B(研究推進)	
豊かな心	①学校教育目標の「な」及び関連する中心資質・能力「かかわり合う力」の育成を推進するために、学校教育目標を各教室に掲示して共有、児童とともに付記しながら足跡を残す。②道徳科の授業改善及びペア学年活動の充実、生活科・総合的な学習を活用して他者との関わりを充実させる。
担当 運営A(人権・児童指導)	
健やかな体	①一校一実践である「長なわ」を核としながら「運動集会」の実施や運動会の在り方を含む体育科の授業改善を進め、児童が自ら運動を生活に取り込むライフスタイルの確立を目指す。②児童にとって必要感のある課題を設定し、探究型の構造をもたせることで学校保健委員会の充実を図る。
担当 体育・保健	
地域との協働	①より地域に根差した学習活動を展開する。社会科はもちろん、生活科や総合的な学習の地域材を開発し、双方向の「開かれた学校」づくりを目指す。②学校運営協議会の意見を尊重し、スクールゾーン対策協議会や地域防災拠点運営委員会と連動し、児童の体験活動の場を設定する。
担当 渉外部(地域連携)	
児童理解・児童指導	①半数以上の職員が入れ替わったことで、児童理解をより充実させる必要がある。情報共有を必要に応じて適宜行う。②学校と家庭での指導の方向性をより共通化するために、学校教育目標の趣旨を積極的に発信する。学校だより、保護者会等での発信機会を増やし、共通理解を図る。
担当 児童指導・特別活動	
幼保小連携	①昨年度拡大した幼児教育機関との連携を強化するため、職員間相互による研修・交流の充実を図るほか、児童間の交流活動を設定する。②幼児教育機関に学校側が出向き、学校の教育方針を説明する機会を設定するほか、幼児教育機関の方針を理解し、スタートカリキュラムを充実させる。
担当 渉外部(幼保小)・専任	
行事の見直し	①昨年度、学校教育目標の具現化を図るための年間計画の刷新を図った。3学期制の前後期制変更に伴う行事日程や内容について、実施しながら教育効果の検証を図り、随時見直しを図る。②児童の必要感に基づく行事になっているかの検証を行いながら、運営改善を図る。
担当 教務	
担当	
いじめへの対応	①学校生活における児童の状況を見取り、児童が教職員に話し掛けやすい雰囲気構築する。児童の声に耳を傾け防止に努めるほか、いじめの早期発見を確実に行って解決を図る。②児童支援専任の対応機会を保障するため、専任の授業時数配分を見直し、即時的な対応を可能にする。
担当 教務部・運営A	
人材育成・組織運営(働き方改革)	①学級担任の平均年齢が大幅低下したことによる経験不足を補うため、ミドルリーダーがサポートする学年ブロック組織を設定し、教職員間での指導体制を充実させる。②校務分掌を劇的に変更し全員参加会議を前年度比2分の1とする。授業づくりに充当する時間を確保しつつ、学校運営上の歪がないようPDCA観点で検証する。
担当 教務部・運営B	